

79-57

AU 261

48905

JA 0125049  
MAY 1989

*[Handwritten signature]*

**(54) MESSAGE MAILING INFORMING SYSTEM**

(11) 1-125049 (A) (43) 17.5.1989 (19) JP

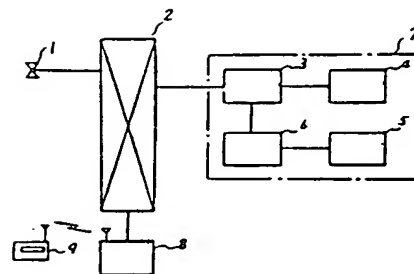
(21) Appl. No. 62-283439 (22) 9.11.1987

(71) NEC CORP (72) RYOICHI SUZUKI

(51) Int. Cl. H04M3/42

**PURPOSE:** To easily judge a fact that a message has been mailed into its own mail box by calling a pocket bell with a display of a main box owner, and also, displaying a subscriber telephone number of a voice store device on a display part of the pocket bell with a display.

**CONSTITUTION:** When an incoming is detected, a pocket bell call center 8 answers automatically, and sends out a talkie sound for transmitting a fact of incoming. When a network control part 3 detects a fact that the pocket bell call center 8 has answered, a subscriber telephone number of a voice store device 7 which has been recorded in a memory of a subscriber telephone number store part 5 from a PB signal sending-out part 6 is converted to a PB signal and sent out, after having waited for the timing of 4~5 seconds in which a talkie sound is sent out. When the PB signal which has been sent out of the PB signal sending-out part 6, the pocket bell call center 8 calls a pocket bell 9 of a user B by radio, converts the received PB signal to numeral information, and displays it on a display part of the pocket bell 9.



1: telephone set of user A. 2: telephone network. 4: voice store part

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A) 平1-125049

⑬ Int. Cl.

H 04 M. 3/42

識別記号

庁内整理番号

R-8426-5K

⑭ 公開 平成1年(1989)5月17日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全3頁)

⑮ 発明の名称 メッセージ投函通知方式

⑯ 特 願 昭62-283439

⑰ 出 願 昭62(1987)11月9日

⑱ 発 明 者 鈴木 良一 東京都港区芝5丁目33番1号 日本電気株式会社内  
⑲ 出 願 人 日本電気株式会社 東京都港区芝5丁目33番1号  
⑳ 代 理 人 弁理士 内原 晋

明 細 書

1. 発明の名称

メッセージ投函通知方式

2. 特許請求の範囲

ポケットベルの呼出し機能をも有する音声着信装置において、該装置に収容される電話回線の加入電話番号を着信する手段と、押ボタン信号を送出する手段を設け、該装置のメールボックスにメッセージが投函され、メールボックス所有者のポケットベル呼出し動作を行った後、押ボタン信号により該装置に着信された加入電話番号を送出することにより、表示付ポケットベルに前記番号を表示し、メールボックスにメッセージが投函された旨を通知することを特徴とするメッセージ投函通知方式。

3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明は、ポケットベルの呼出し機能をも有する音声着信装置に関し、特にメールボックスにメッセージが投函された旨をメールボックス所有者へ通知するメッセージ投函通知方式に関する。

〔従来の技術〕

従来、この種の音声着信装置は、メールボックスにメッセージが投函された場合、メールボックスの所有者へメッセージが投函された旨を通知する手段として、メールボックス所有者のポケットベルに対し発信機動作を行い、相手のポケットベルを呼出すものであった。

〔発明が解決しようとする問題点〕

したがって、従来の音声着信装置では、メッセージ投函通知方式として相手のポケットベルを呼出すだけで、ポケットベルの所有者は音声着信装置からの呼出しなのか、他の人からの呼出しなのか判断できないという問題点があった。

〔問題点を解決するための手段〕

本発明のメッセージ投函通知方式は、ポケットベルの呼出し機能をも有する音声着信装置に加入電

話番号を蓄積する手段と、押ボタン信号を送出する手段を設け、メールボックスにメッセージが投函されるとメールボックス所有者のポケットベル呼出し動作を行った後、押ボタン信号により音声蓄積装置に蓄積された加入電話番号を送出することにより、表示付ポケットベルの表示部に前記加入電話番号が表示され、音声蓄積装置からの呼出しであることを知らせると同時に、メールボックスにメッセージが投函されたことが判断できる。

#### 〔実施例〕

次に、本発明について図面を参照して説明する。

第1図は本発明の一実施例を示すメッセージ投函通知方式のブロック図である。第1図において、1はメッセージを投函する電話機、2は電話交換網、3は網制御部で電話網に対する着信接続と発信接続を行うものである。4は音声蓄積部で電話機1より入力したメッセージを蓄積する。5は加入電話番号蓄積部で網制御部3に収容する電話回線の加入電話番号を記憶しておくメモリである。6はPB信号送出部で加入電話番号蓄積部5に記

りに記憶された音声蓄積装置7の加入電話番号をPB信号に変換し送出する。ポケットベル呼出しセンター8は、PB信号送出部5より送出されたPB信号を受信すると、利用者Bのポケットベル9を無線で呼出し、前記受信したPB信号を数字情報に変換し、ポケットベル9の表示部に表示する。利用者Bは、ポケットベル9の表示部に表示された加入電話番号により、音声蓄積装置7からの呼出しであることが確認でき、自分のメールボックスにメッセージが投函されたことが判断できる。

#### 〔発明の効果〕

以上説明したように本発明は、音声蓄積装置のメールボックスにメッセージが投函された旨を通知する方式として、メールボックス所有者の表示付ポケットベルを呼出すとともに、音声蓄積装置の加入電話番号を表示付ポケットベルの表示部に表示することにより、音声蓄積装置からの呼出しであることが一目で確認でき、自分のメールボックスにメッセージが投函されたことが容易に判断

できる。7は本発明のメッセージ投函通知方式をもちいた音声蓄積装置、8はポケットベル呼出しセンター、9は表示付ポケットベルである。まず、利用者Aは電話機1より音声蓄積装置7が加入する電話番号をダイヤルすると、電話交換網2を経由して網制御部3で着信を検出し、利用者Aに応答する。利用者Aは、応答を確認後、利用者Bのメールボックスを指定しメッセージを入力する。入力されたメッセージは音声蓄積部4に蓄積される。音声蓄積部4にメッセージが投函されると、網制御部3は利用者Bのポケットベル呼出番号を自動的にダイヤルし、電話交換網2を経由してポケットベル呼出しセンター8を呼び出す。ポケットベル呼出しセンター8は、着信を検出すると自動的に応答し、着信した旨を伝えるトーン音を送出する。網制御部3が、ポケットベル呼出しセンター8が応答したことを検出すると、トーン音が送出される4～5秒間のタイミングを待ってPB信号送出部5より加入電話番号蓄積部6のメモ

できる。

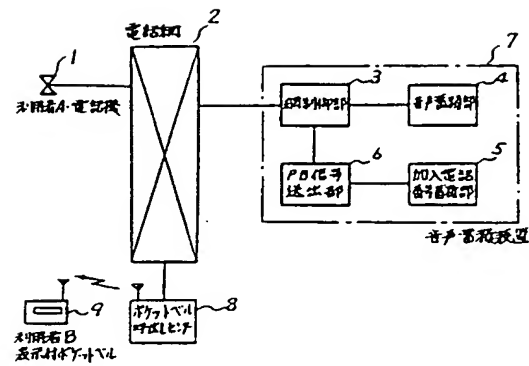
#### 4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明の一実施例のブロック図である。

1……電話機、2……電話交換網、3……網制御部、4……音声蓄積部、5……加入電話番号蓄積部、6……PB信号送出部、7……音声蓄積装置、8……ポケットベル呼出しセンター、9……表示付ポケットベル。

代理人 弁理士 内 原





第 1 図